第 240 号
平成７年（1995年）11月30日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3-3-35

ロックフェラーセンターのクリスマス・ツリー（ニューヨーク）

クリスマス商い考

陶山 計介

五年前、カリフォルニアのバークレイで迎えたクリスマス。それは無宗教の来訪者さえも敬虔な信者にする魔法の力をもっている。近所の教会で賛美歌を唱い、キリストの生誕劇を神妙な面もちで皆と観た。玄関のリースや樅の木のクリスマス・ツリー、暗闇の中で点滅している多彩な色のイルミネーションも幻想的な雰囲気を演出する。

クリスマスの暖炉やツリーの前を、きれいな包装紙でラッピングされたプレゼントが飾る。玩具、本、ネクタイや化粧品、さらには衣料品などさまざまなアイテムがギフトとなる。

儀礼ギフトは、物の贈与と感謝や愛情といった返礼との間の象徴交換である。同時に、贈られる物の価格、品質、デザイン、パッケージなどのうち何を重視するかというかたちでそこには社会的関係や経済的関係が投影される。そしてそれには、お目当てのギフトをどこで買うかということも含まれる。

クリスマス需要を当て込んでいるのが流通業。ハロウィーンが終わり十一月に入ると、一斉にクリスマス商戦に突入する。年間の売上高の三割以上を占めるだけに、どの店も特大のツリーを置き、あざやかなモールや照明、什器などで店内を飾り、セール商品が所狭しと並べられる。思わず財布の紐も緩むという訳である。九一年まで不振が続いたが、この二、三年は好調と伝えられる。昨年は、ディスカウント・ストア（DS）や家電専門店などの小売業態が予想を上回る伸びを示す一方、衣料品を中心とする百貨店や専門店はやや動きが鈍かった。ローン残高の膨らんだ消費者が、衣料品やギフトなどの身の回り品を「DSでの現金買い」にシフトさせた結果ともいわれる。価格破壊と堅実消費である。

アメリカ滞在時、クリスマス客で賑わう百貨店やスーパー、ショッピングセンターとは対照的に、近所の商店が妙に閑散としていたのが印象に残った。同じ現象は日本でも起きている。一九八二年をピークに小売店舗数が減少した。『平成六年商業統計速報』でも、三年前と比べ六・六％減少している。従業員五十人以上の大規模小売業の店舗数は二三％増えているが、一人～四人の零細小売業が一〇・九％と大幅に減少したためである。

先日、通産省・中小企業庁の中小流通業懇談会が東京であった。今次の流通革命のなかでわが国の流通システムがどのような方向に変化しているのか、そこにおける中小流通業の役割や政策的支援のあり方を見つけるのがその趣旨である。地域に密着した身近で専門的な、また対話型の商業として消費者の生活価値の向上に資することが期待される。さらに街づくりの担い手でもある。

クリスマスや歳末商戦は百貨店やスーパー、DSだけのものではない。師走特有の気ぜわしさと妙にマッチした商店街や小売市場の歳末大売り出し、胸をわくわくさせた福引き。戦後から高度成長期にかけての活気溢れる下町の原風景が甦るのは何時のことだろうか。

（商学部教授）

HEADLINE

2面　96年度入学願書を発売
3面　関大フォーラム「学園祭」
4・5面　学園祭特集
「後夜祭」関大生一〇〇人アンケート
6・7面　特集「読書は楽しい!!」
8面　研究室訪問

千里眼

今年は阪神・淡路大震災に明け、一連のオウム裁判で幕を下ろすという、近年にない劇的な一年でした▼これに呼応するかのように、世相は刺々しいものがあります。ハルマゲドンを中心とするカルト現象もこの一例でしょう。現代的疎外現象の中で、明日への希望をなくした若者が、そこで求めようとしたのは一体何であったのか▼ハルマゲドンの出現は、常にある種の終末思想と結びついています。今から一〇〇年前にも、ウイーンを中心に世紀末の思想が語られ、鬱積した社会状況がヨーロッパに暗雲をたなびかせ、世界の破滅を促進しました。現代も、残念ながらこれによく似た状況にあります▼ゲーテの言う、三〇〇〇年の闇を照らす術を忘れた現代人は、二一世紀への出口を未だに発見していません。混沌と混乱が支配する時代において、悪魔は「尊師」に身を代えて、現代の若者に甘く囁き、何かを誘惑しています▼この中にあってノルウエイの作家ゴルデルは哲学の復権を唱えています。『ソフィーの世界』（NHK出版）がそれです。これは二一世紀で活躍する若者へ向けたメッセージです。現代の闇を解く鍵は、人間の英知の歴史を知ることから始まります。このような本が全世界で愛読されていることは出口に向けた確かな手応えを感じさせます。（S・U）

関大フォーラム

学園祭に思う

森田 雅也

そもそも祭りとは、非日常的な活動であるから、飲めや歌えの大騒ぎを繰り広げることも結構なことである。同時に、非日常であっても日常と何らかの連鎖があるものと考えれば、華やかに盛り上がれば盛り上がるほど、いかに日常が有意義にこなされているかを示すことにもなるであろう。しかし、大学の学園祭が、ただ単なる飲めや歌えの大騒ぎだけで終わってしまうとなると、大学に箔を置くものとしてやはり寂しさを禁じ得ない。本学の学園祭についても残念ながらこの嫌いは否めない。

ここに一九八六年から一九九四年まで（一九九二年版は入手できなかったため除く）の本学学園祭のパンフレットがある。この期間に、サークル企画を除いた各学部祭企画により催されている企画の数値をどう捉えるかである。

では、百二十六（年平均二十八・三）である。そのうち、講演会、シンポジウム等の数は五十五であるが、お笑いタレントやテレビでお馴染みの芸能人のそれを除くと二十四（年平均三）となり、全企画に占める、学術的な講演会、シンポジウムの割合は、年平均一割強となる。

もちろん、これはパンフレットから得られる情報のみから導き出した数値であり、各企画の中身について厳密に調べあげた結果ではないが、凡そ事実と異なることはないであろう。果たしてこの数値をどう捉えるかである。

「これで十分だろう」とタレントの講演でもいいではないか。「講演会なんて無くてもいいじゃない？」こうした声も聞こえてきそうであるが、私としては、やはりこの数値は低いと思う。これらの企画に加えて、学園祭当日は数え切れないほどの模擬店が学内に軒を連ねているのである。学園祭体の中に、大学としての文化や知性の香りを見いだすことはかなり難しくなってくる。

大学とはいやしくも最高学府である。たとえ、非日常の祭りであっても、やはりそれなりの内容であってほしいと願う。パンフレットの表紙だけ変えれば、高校の学園祭になってしまうようなものばかりでは、一体日々何をやっているのだということになるであろう。

学園祭の企画の全てが全て、講演会やシンポジウム、セミナー風等の研究成果の発表を行うべきだと言っているのではないそうした企画が、もっぱし増えてほしいと願っているのである。なぜなら、それは、学生諸君方々それなりの問題意識を持ち、個々の課題に取り組んでいることの証と考えられるからである。そう思えば、私自身も日常、学生諸君に知的関心を喚起するような教育を行っているかを問い直さずにはいられない。

（社会学部助教授）

ドイツの大学では

D・F・シャウヴェッカー

ヨーロッパから来た人が初めて日本の大学祭を見た時に驚くのは、その規模が大きいことでしょう。大学祭はお盆と正月の中間の重要な年中行事の一つであって、学生のストレスを年に一度発散させ、「和」や「ふれあい」といったものを組織的に再確認する場になっているようです。

一方、この大騒ぎのかげで開かれている社会・政治問題をテーマにした講演会などは、日本の大学生の知的問題意識を反映しているのでしょう。

では、ドイツでは事情はどうでしょうか。ヨーロッパの他の大学でも同じことでしょうが、大学祭は一晩しか開かれません。その日は夕方から深夜まで、音楽を聴きながらおしゃべりやダンスを楽しみます。これにかなりの量のアルコールが加わります。

なぜこのような違いが生じるのでしょうか。まず、日本の学生生活では授業、アルバイトと並んで、第三の柱としてクラブ活動があり、その成果を年に一度発表する機会としても大学祭が設定されているのですが、ドイツなどではこれに相当するクラブ組織がないので、年間の活動を続けた上で、さも巨大な祭りまで準備するような基盤がキャンパス内にはないわけです。遊びの舞台はむしろ大学の外、正門前の喫茶店や居酒屋なのです。これには二つの理由が挙げられるでしょう。

一つは、野菜を求める時には八百屋に行くのと同じく、大学に通う積極的な目的は勉学にあり、学生が人生に求めるそれ以外の楽しみや遊びについては、大学側はそれぞれの学生を放任しているということです。もう一つの違いは、就職が大学名や業時の成績によって決まるので、競争的な試験勉強が激しいということです。この二点で日本と対極にあるドイツの大学では、昼休みのキャンパスが静かで、大学祭が小規模であるのは、お分かりいただけるでしょう。

ドイツの大学生の平均年齢は日本より一～二年高くまた、既に中学時代から授業形態はクラス制から選択制に変わっており、大学に入ってからは、必修教養科目なしに、すぐ専門科目を選択する制度になっています。このような制度の下では、学生全体の歩みは日本に比べバラバラで、それぞれの学生が求める楽しみや遊びの面でも、少人数の趣味的な集まりはあっても、組織的、集団的な指導は開催される傾向にあります。学生は、大学に対しては勉学以上のものは期待していないようです。

日本でも、大騒ぎの大学祭に参加する学生が半数に減ったなどというような話も聞きましたが、もしそうであれば、その動機にはヨーロッパと共通したものがあるのでしょうか。

（大学部教授）

学園祭

迷惑駐車をなくそう

大学周辺 巡回指導を実施

近年、モーターバイク通学員会を了承した上で、交通問題対策委が著しく増加し、大学周辺にところ狭しと止められている為、救急車・消防車等の通行や通学・通勤の妨げになっているばかりでなく、事故の危険性もあり地域住民や関係官庁から抗議があとをたたない状況にあった。

本学ではこの様な事態を改善するため、交通問題対策委員会を了承した上で、警告的ハガキを郵送したのに続き、十二月十三日から十七日まで大学周辺を九地区に分けて巡回を行った。初日は約四百台ものモーターバイクが通学に利用されていて、今後モーターバイク通学をしないよう指導を行い、協力を求めた。

その際、モーターバイク通学について、許可制もしくは有料化等を求める声が聞かれたので、この問題に対する現在の方針を明らかにしておきたい。平成五年度の学生生活実態調査「100考察―関大生の意識調査」の設問として、「もしバイク通学が許可制であれば申請する」と答えた人は、四二・四%で学生数から換算し、無制限に許可すれば一万台以上のモーターバイク通学が推計される。この千里山キャンパス周辺をとりまく道路状況・アクセスと一万台のモーターバイクが通学に使用された時の「けったいな」状況を想像すると、「駐輪場スペースの確保」と「駐輪要員の確保」を考え合わせると、「事故」等を考えるわけにはいかない。

構成員の皆様には、これらの諸事情を理解され、モーターバイクによる通学をしないよう訴えるものである。

（交通問題対策委員会 委員長 中島 巌）

来日初め京都・滋賀で

世界大学生平和サミット

第二次世界大戦終結から五十年、世界の大学生が二十一世紀に向けて平和に関する学習と相互の理解ならびに交流を深めることを目的に「世界大学生平和サミット」が十二月四日（月）から六日（水）まで京都・滋賀で開かれる。

石川啓四大学総長、大南正瑛立命館大学総長らが二人の総長・世界大学生平和サミット実行委員会が主催、比叡山延暦寺とユネスコ（国連教育科学文化機関）の協力を得て開催されるもので、主催者は海外からの約百人を含む五百人規模の参加を予定している。

四日は京都宝ケ池プリンスホテルで代表者予備会議、五日は同ホテルで開会総会を行い、①戦後五十年、平和と核廃絶の努力をレビューする、②平和と開発をめぐる諸問題を考える、③二十一世紀社会、平和を学び、平和のビジョンをつくりだす、の三つをテーマに討議を行う。

六日は比叡山延暦寺と共催で、「世界大学生平和サミット・平和の集い」を同山内で開き、国際平和ステートメントを発表する。

本学からは顧問として坂元茂樹法学部教授が参加。また、実行委員として山河寛章君（第1部法学部四年次生）をはじめ、次の五人の学生が参加する予定である。

人見 友子 法学部四年次生
山村 由美 文学部四年次生
山本光弘 経済学部四年次生
平木あゆみ 商学部二年次生
前田 恵 社会学部二年次生
（いずれも第1部学生）

ありし日の星野先生と夫人

星野信夫先生を偲ぶ

筒井 脩

念から色調、花、味覚、島、船等の心象研究を通じてキーソ特有の感性を探求してこられました。

人望の厚い先生は大学紛争の嵐が吹き荒れていた昭和四十三年には学生部長代理を勤められ、困難な事態に直面され並々ならぬ苦労をされました。また就職主任として、研究・教育上の顧著な功績により関西大学の感謝を申し上げ、星野先生のご冥福をお祈りいたします。合掌。

（文学部教授）

先端ネットワーク

ポリマー国際シンポ

工学部が開催

工学部では、高分子学会ポリマー・ソロを原語で唄われるのが常でした。「宵闇を帯びた先生のお声が懐かしく思い出されます。

公私共に大変お世話になりました。もっと長生きされていろいろご指導をいただきたかった。改めてくやしの感慨を申し上げ、先生のご冥福をお祈りいたします。合掌。

（文学部教授）

来学抄信

◇交換研究者
◇遠軍大学（中国）の趙德志副教授、李平副教授、張偉趙德志副教授は文学部において坂出祥伸教授の協力により、「儒学の日本現代社会での地位と役割」等について共同研究を行う。

李平副教授は、経済学部において安喜博彦教授の協力により「日本政府の企業・市場への対する規制」等について共同研究を行う。

張偉副教授は、工学部において山下一美教授と今西茂教授の協力により「人工知能理論」等について共同研究を行う。

◇招へい研究者
◇シュトットガルト（国立美術大学・ドイツ）のクラウス・キンター教授は、十月一日に来学し、文学部において植條則夫教授と「美術史における広告制度、広告戦略、広告表現」等について共同研究を行う。

◇グラムス学（イギリス）のイアア・コリコット上級講師は、十月二十一日に来学し、東西医療研究所において安川昱教授とポスト・ロニアル文学とフェミニズム」等について共同研究を行う。

◇ベルリン・アリス・ソロモン大学（ドイツ）のベルリッピ・ローマン教授は、十一月三日に来学し、法学研究所において植村哲教授と「医事法に関する日独比較」等の共同研究を行う。

大学人事

十月一日付で新役職者が次のとおり発令された。

▼経済・政治研究所▲
所長 経済学部教授 松岡 保

松岡 保
経済・政治研究所所長

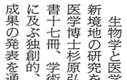
教授は京都大学で社会思想史を専攻され、わが国を代表する研究家である出口勇蔵、平井俊榮、田中真晴各教授の特にナロードニキ主義の研究では日本を代表する業績を挙げられている。その一端は中央公論社刊の「ロシア革命の研究」所収論文として結実している。最近ではマクレランの大著も翻訳なさっている。

十一月一日付で新役職者が次のとおり発令された。

▼就職部▲
就職主事 法学部教授 真鍋 俊二
文学部教授 奥村 透
経済学部教授 一圓 光彌（再任）
商学部教授 広田 俊郎
社会学部教授 松原 一郎
総合情報学部 教授 宮下 文彬（再任）
工学部教授 小幡 斉（再任）

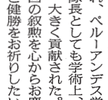
新役職者紹介

藤本 勝次名誉教授に 勲三等瑞宝章



藤本勝次名誉教授は本年度秋の叙勲で勲三等瑞宝章を受章された。昭和二十九年以来三十七年間にわたる本学での教育・研究はもちろん、文学部長、東西学術研究所長および学内理事などの大学運営に加えて、イスラム史研究に指導的役割を果たし、後進の育成に尽力されたことが高く評価されたことは申し上げるまでもない。平成四年三月に退休されたあと後輩の文字がはばかられるほどお健やかに院生の指導に当たられている。

杉原 弘人名誉教授に 勲三等瑞宝章

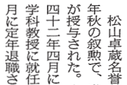


生物学研究水槽の向上に大きな貢献を成し遂げられた。

学内では入学試験実行委員長としてA式試験改革を推進をはじめ、学生部長代理、教学部長代理、就職主事等を全うされ、ベルーアンデス学術調査隊長としても学術上、行政上、大きく貢献された。

今回の叙勲を心から慶び、ご健勝をお祈りしたい。

福島 達名誉教授に 勲三等瑞宝章

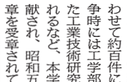


本学就任早々に生物理事長の大役を勤められたが、その後入権問題研究室長や経済学部等を歴任なっている。廉直・潔癖・徹底主義をどの場面でも発揮、大学や学部の多くの制度改革に貢献されている。

近年心臓を病まれ、身体をいたわっておられたが、調査研究員としてのイギリス滞在からも無事帰国され、またまた大役登板である。

平成七年の秋の叙勲に、福島達名誉教授が勲三等瑞宝章受章の栄に浴された。先生は昭和三十八年十月に工学部化学工学科教授に就任、平成二年三月に定年退職されたが、その間、小児科医としてのみならず、ロシア研究者としても著名な松田道雄氏に師事され、特にナロードニキ主義の研究では日本を代表する業績を挙げられている。その一端は中央公論社刊の「ロシア革命の研究」所収論文として結実している。最近ではマクレランの大著も翻訳なさっている。

松山 卓蔵名誉教授に 勲四等瑞宝章



松山卓蔵名誉教授に平成七年秋の叙勲で、勲四等瑞宝章が授与された。先生は、昭和四十二年四月に工学部化学工学科教授に就任、平成二年三月に定年退職された。その間、排ガスの脱硫、電気集塵器の研究、粉体に関連する単位操作などを精力的に研究され、多くの業績を上げられた。先生は数多くの発明賞をもらっておられ、特許、実用新案合わせて約百件に上る。大学紛争時には工学部代理を、また工業技術研究所長を勤められるなど、本学の運営にも貢献され、昭和五十年に紫綬褒章を受章されている。

国家試験合格者

大学卒業者（来年三月卒業予定者を含む）を対象に国が実施する各種資格試験や採用試験のうち、今日までに合格者が判明している本学関係者の氏名は次のとおり。

〈司法試験〉
十月三十一日に本年度の第二次試験最終合格者が発表され次の五人が合格した。
長屋 興 平成元年 法学
小林 弘和 平成2年 法学
岩田 祐子 平成3年 法学
伊藤 孝江 平成3年 法学
湯浅 寿江 平成2年 法学
（旧姓 材井）
福井 健司 平成4年 商学
光博 平成5年経済学
小山 平成5年経済学
鈴木 良成 平成5年経済学
坂本 潤 平成6年経済学
中瀬 稔 平成元年 法学

〈公認会計士第二次試験〉
十月五日に本年度の第二次試験最終合格者が発表され次の九人が合格した。
池田 勉 平成6年 商学
西井 秀明 平成6年 商学
香川 晋平 平成7年 商学
若山 聡満 平成3年経済学
中野 知美 商学部四年次生

〈公認会計士第三次試験〉
なお、第三次試験の合格者は次の十人であった。
渡辺 明久 昭和50年 工学
吉井 修 昭和59年 工学
村井 一雅 昭和62年 商学
杉山 浩三 平成2年社会学
伊東 昌一 平成2年社会学
新免 康子 平成3年 法学
内田 聡 平成3年経済学
若山 聡満 平成3年経済学

国家試験合格者年度別推移（人）

種類＼平成年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
司法試験	5	11	5	15	10
公認会計士第2次試験	12	10	6	5	8
公認会計士第3次試験	9	11	3	5	9
弁理士試験	3	1	3	1	4

復旦大と学生交換

締結

十一月十三日（月）に中国・上海において石川啓学長が復旦大学の楊福家校長と学生交換協定の締結調印を行い、平成八年度より交換留学を開始することなった。

これにより、従来からの遼寧大学及び東北大学と併せて平成八年度の交換留学生を平成七年十一月二十七日～十二月九日の間募集することなった。詳細については、国際交流センターに問い合わせること。

（国際交流センター）

交換留学生の歓迎会

本年九月から一年間、本学に受け入れる交換留学生の歓迎会を十月十二日（木）午後四時三十分からレストラン紫苑において開催した。

今回の交換留学生は、ジョージ・ウシントン大学より一人、カトリック・ルーバン大学より四人、ハワイ大学より二人、パーミンガム大学より一人の計八人である（中国・東北大学からの交換留学生一人は十月末に来日）。

上村哲彦学部長の歓迎の挨拶に続き、交換留学生が日本語で自己紹介した後、懇親会に移り秀麗寮のルームメイトたちとの会話に花が咲き、和やかな雰囲気のうちに閉会した。

（国際交流センター）

1996年度入学試験願書を発売中

1996年度の入学試験願書と入学試験要項および最新の関西大学を紹介した『大学案内』（670円・消費税を含む。郵送の場合は送料共1,000円）は、全国のデパート・主要書店および千里山キャンパス事務室で発売中である。

なお、1996年度一般入学試験の概要は次のとおり。

日程	学部	試験日	試験地	出願期間	合格者発表日
A	法学部	2月1日(木)	大阪:東京・名古屋・岡山・広島・福岡	1月4日(木)～18日(木)（締切当日消印有効） 1月19日(金)・20日(土) 大学への持参のみ有効	法・経済・商学部、総合情報学部S日程 2月13日(火) 11:00速達で発送
	工学部	2月2日(金)	大阪:東京・金沢・浜松・名古屋・岡山・広島・高松・松山・福岡		
	経済学部	2月3日(土)	大阪:札幌・仙台・東京・横浜・新潟・金沢・浜松・名古屋・米子・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島		
	商学部	2月5日(日)	大阪:東京・金沢・浜松・名古屋・岡山・広島・高松・松山・福岡		
	社会学部	2月6日(火)	大阪:東京・金沢・浜松・名古屋・岡山・広島・高松・松山・福岡	総合情報学部A日程のみ 1月30日(火)～2月15日(木)（締切当日消印有効） 2月16日(金)・17日(土) 大学への持参のみ有効	文・社会・工学部 2月14日(水) 11:00速達で発送
	文学部	2月7日(水)	大阪:東京・金沢・浜松・名古屋・岡山・広島・高松・松山・福岡		
	総合情報学部	2月24日(土)	大阪:東京・金沢・浜松・名古屋・岡山・広島・高松・松山・福岡		
S	法学部（E方式・英語重視）	2月4日(日)	大阪:札幌・仙台・東京・横浜・新潟・金沢・浜松・名古屋・米子・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島		総合情報学部A日程 2月29日(水) 11:00速達で発送
	経済・商学部		一 札幌・仙台・東京・横浜・新潟・金沢・浜松・名古屋・米子・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島		
	文・社会・総合情報・工学部		大阪:札幌・仙台・東京・横浜・新潟・金沢・浜松・名古屋・米子・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島		

◇試験教科・配点◇
【文科系学部】外国語（英語）(200)・国語(200)・社会または数学(100)500点満点
＊法学部S日程のみ 外国語（英語）(300)・国語(200)・社会または数学(100)600点満点
【総合情報学部】外国語（英語）(200)・国語(200)・数学(200)のうちから2教科選択。400点満点
【工学部】外国語（英語）(200)・数学(200)・理科（物理または化学）(200)600点満点
◇入学検定料◇ 35,000円

告示

先月末、およそ信じ難い極めて悪質な差別掲示物・差別文書が、千里山キャンパス構内で発見された。以下、その経緯を明らかにし、本学の見解を掲げて学生諸君の理解を求めるものである。

去る10月30日夜、翌31日朝、さらに今月1日朝、理性の府たるべき大学において、ひじき差別掲示物が、法文前の植木棚に2カ所、保健管理センター前の工事用フェンス1カ所に掲示されているのを、また悪質極まる差別文書3部が、総合図書館の石段前、正門又路電話ボックス付近のベンチ上、第二工学舎2号館B301教室の前に放置してあるのを、幾人かの学生がそれぞれ個別に発見し、届けられた。それらは、所定の手続きによって確認され、直ちに告示「学生諸君へ」（11月1日付）が各学部および学生部に掲げられた。

今回の差別掲示物・文書は、どちらも「政略治結社 大日本狩奈会」を名乗っており、「政略業差別、部落差別の露骨な字面を弄びながら司法研・行政研を揶揄する一方、学歴・職業差別、女性差別に加えて、あろうことか京阪神地域の「地名」まで末尾に付けた部落差別を平然と書き綴っているのである。

誰が、また何故に、ここまで酷い所業に及んだのであろうか。断じて許せぬ暴挙である。

今やそれは、本学において20年来取り組んでいくことのできない、正義に目覚めた所業であるとも言えよう。本学は、これまで地道に積み重ねてきた人権啓発、人権教育・研究の大道を、教育・箱実な修士課程修了の使命に則って一歩ある。

平成7年11月9日 関西大学

キャンパス情報

岡本投手、近鉄入りへ 飛躍

野球部の岡本晃投手（社四）が十一月二十二日に開催されたプロ野球ドラフト会議で、近鉄から2位に指名された。

これまで、岡本は近鉄を逆指名していたため、今後、近鉄への入団が正式に決定するものと思われる。

なお、本学からのプロ野球選手は元阪急の山口高志投手（現オリックスコーチ）以来で、二十一年ぶりのことである。

陸上競技部では、九月三十日から十月一日にかけて瑞穂陸上競技場（名古屋）で行われた第四十八回西日本学生陸上競技選手権大会において高田章章（社四）が、男子400mで準優勝に輝いた。また、十月十日、浜山公園陸上競技場で行われた出雲全日本大学選抜駅伝競技において、関西の出場校中トップの5位賞を果たした。

関西勢の5位賞は、今回がはじめて。

（学生部）

来年初め京都・滋賀で

世界大学生平和サミット

第二次世界大戦終結から五十年、世界の大学生が二十一世紀に向けて平和に関する学習と相互の理解ならびに交流を深めることを目的に「世界大学生平和サミット」が十二月四日（月）から六日（水）まで京都・滋賀で開かれる。

石川啓四大学総長、大南正瑛立命館大学総長らが二人の総長・世界大学生平和サミット実行委員会が主催、比叡山延暦寺とユネスコ（国連教育科学文化機関）の協力を得て開催されるもので、主催者は海外からの約百人を含む五百人規模の参加を予定している。

四日は京都宝ケ池プリンスホテルで代表者予備会議、五日は同ホテルで開会総会を行い、①戦後五十年、平和と核廃絶の努力をレビューする、②平和と開発をめぐる諸問題を考える、③二十一世紀社会、平和を学び、平和のビジョンをつくりだす、の三つをテーマに討議を行う。

六日は比叡山延暦寺と共催で、「世界大学生平和サミット・平和の集い」を同山内で開き、国際平和ステートメントを発表する。

本学からは顧問として坂元茂樹法学部教授が参加。また、実行委員として山河寛章君（第1部法学部四年次生）をはじめ、次の五人の学生が参加する予定である。

人見 友子 法学部四年次生
山村 由美 文学部四年次生
山本光弘 経済学部四年次生
平木あゆみ 商学部二年次生
前田 恵 社会学部二年次生
（いずれも第1部学生）

「インターネットと大学の未来像」をテーマに

12月に総合情報フォーラムVI

関西大学「総合情報フォーラムVI」が十二月十五日（金）「インターネットと大学の未来像」をテーマに、千里ライフサイエンスセンター階ザイエンスホールで開かれる。午前十時開会。昼食休憩を挟んで四氏の講演がある。

「大学教育とコンピュータ」東村高良社会学部教授

「情報通信メディアの発達と大学の未来」清水康敬東京工業大学教育工学開発センター教授

「ハイパーメディアと利用者の視点」上島紳一総合情報学部教授

「マルチメディア環境の変化と教育」

午後三時十五分からは「インターネットと大学の学習環境の高度化」をテーマに討論会を行う。コーディネーターに水越敏行総合情報学部教授、パネリストに清水、上島、前迫三氏のほか相模秀夫応応義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長を加え、五時過ぎまで多様な論点についてディスカッションされる。

学生諸団体の行事予定

【第1部】▼全気道部＝十二月二日（土）十二時、全国学生合気道演武大会（愛知県武道館）▼卓球部＝十二月二日（土）～六日（水）九時半、第五十七回全関西学生卓球大会（京都府立伏見港体育館他）▼陸上競技部＝十二月十日（日）九時半、第五十七回関西学生対校駅伝競走大会（丹後半島）▼アイススケート部＝十二月十一時、全日本大学選手権大会（草稿田大学）▼書道部＝十二月二十二日（金）～二十四日（日）十時、第四十四回関西学生学生書展（吹田メイ岳スケートセンター）▼剣道部＝第十二回全日本学生剣道選抜大会（山梨県・八ケ岳スケートセンター）▼剣道部＝十二月十三日（土）～二十四日（日）十時、第四十四回関西学生剣道選抜大会（早稲田大学）▼軽音楽部＝十二月十七日（日）三時、学外ライブ（光明ナムホール）

【第2部】▼軽音楽部＝十二月十一日（金）十八時半、第三十四回定期演奏会（伊・シンフォニーホール）

団吹楽楽部＝十二月一日（金）十八時半、第三十四回定期演奏会（伊・シンフォニーホール）

加藤 裕康 平成3年 商卒
藤枝 政雄 平成4年経済卒

〈国家公務員I種〉
本年度は、次の二人が合格した。
（心理）
阿波 亨 昭和62年大学院修士課程修了
野間 由香 社会学部四年次生

第二回就職ガイダンス開く

平成七年度第二回就職ガイダンス（文部省、就職協定協議会、財団法人内外学生センター共催）が十一月七日（火）午後、百年記念会館で開かれた。学生の就職環境悪化に伴い本年度発足したもので、第一回は四月二十八日に稲田大学で開催されている。

当日は各大学・短大・高専の就職担当者、団体・企業各社などから約八百人が出席。内定状況や今後の求人拡大を話し合った。

学園祭

一九九五年度の学園祭は、十一月一日から三日（第2部・千里山キャンパス）の日程で開催された。

本年の「学園祭特集」は、「後夜祭」にスポットを当てる。参加する学生諸君に、の誓いでもある。勇猛。華麗。荘厳。陶酔。参加した誰もが心を一つにし、我らう試みである。

後夜祭は関西大学の学園祭を締めくくる伝統の宴である。そして、新たな宴へ降りしきる雨の中、第1グラウンドに、若者たちの想いが集まった。

（西田）

だから、「後夜祭」

関大生一〇〇人アンケート

アンケートの実施は、後夜祭当日の十一月七日の午後二～三時。第1グラウンド周辺の男子・女子各五十人ずつ百人に対してお願いした。

七日は平日で天候が悪かったこともあって、参加者は関大生が約九割を占めていた。少し驚いたが、やはり関大生の祭りであるから当然のことか。参加者の内、男子はほとんどが関大生、一方女子は関大生が八割、他大学が二割。少しではあるが男女の参加に違いがあるようだ。

参加回数で、「初めて」が五十三人、「二回目」が二十八人、合計八十一人と約八割を占めた。これは調査の時間との関連もあり、席取りをする下級生が多かったためと思われる。時間がもう少し後であれば比率も変わっていただろう。学年と参加回数が同じ学生が多かった。一度参加すれば後夜祭の魅力にとり憑かれるようだ。

「以前参加して良かった」が半数近くを占めている。サークルでの参加も結局は「サークル友人に誘われて」と解釈でき、やや消極的な参加理由が目立つといえる。やたら群れをなしたがる現代学生気質がここにも現れているようだ。

ただし一部には「関大生だから」「来るのが基本」と答えている学生もおり、愛校心の深さが覗けそうである。また「感動的だから」「雰囲気を味わいたいから」と独特の盛り上がりをみせる後夜祭に魅力を感じている学生も多い。

他大学の学生の参加理由は「以前参加して良かった」がほとんどで、過去に何度か参加していたことが窺える。

催し物で人気ランキングの第一位に輝いたのは、キャンドルサービスで三十四人。特に女子の人気が高く、闇の中に揺らめくキャンドルの美しさが支持されるようだ。第二位は応援団演舞で三十二人。学園祭で何を楽しんだかを尋ねると、模擬店が五十八人と圧倒的であった。次はステージ企画で十九人。余談だが筆者は学園祭期間中研究室で論文の仕上げをしていた。ステージでの吉本風の大声でのしゃべり方には全く閉口した。"ええいクソ！やかましい！"と何度心の中で叫んだとか。もっと静かなしゃべり方でしかも場を盛り上げる創意工夫を凝らして欲しい。物まねは駄目。それが学園祭の理念の一つ「文化創造の場」（学園祭パンフでの委員長あいさつ）の真の意味である。調査時間に行われていたステージ上でのプロレスも、強烈に印象に残ったようである。その他、やはり後夜祭が一番の楽しみだという学生、全部が楽しかったと答えた学生もいた。（広報委員・長久良一）

アンケートの主な内容
（男女50人ずつ計100人）

【今まで後夜祭に参加したか】

初めて	53
2回目	28
3回目	19
4回目	9

【今回参加した理由は】（以下複数回答含む）

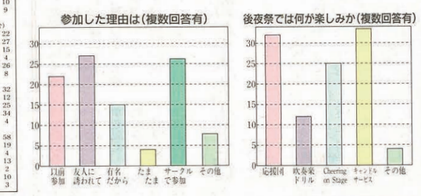
以前参加してよかった	22
友達に誘われた	27
関大の後夜祭は何か	15
たまたまそこでサークルで	4
その他	8

【後夜祭では何が楽しみか】

応援団演舞祭	32
吹奏楽・ドリル	12
Cheering on Stage	25
キャンドルサービス	34
その他	4

【学園祭では何がよかったか】

模擬店	58
ステージ企画	19
講演会・シンポ	4
プロレス	13
研究発表	2
その他	10
無回答	3



高槻キャンパス

開設して二年目の学園祭。昨年同様、二日間高槻キャンパスで実施し、残りの二日間を千里山キャンパスに合流して開催された。

今年は、モニュメント広場にステージをつくりライブ演奏を行ったり、模擬店を出店したり、華やいだ雰囲気作りに力を注いでいた様子であった。

模擬店は焼き鳥・フランクフルト・もちの店とフリーマーケットの二店が出店。同時に広場ではドッジボール大会も開催され、六チームほどが参加していた。その中の一チームは飛び入りで、ほとんどが女子。二回あたってもOKというの特別ルールをとったものの優勝は、男子が中心のチームになった。

体育館では、3on3のバスケットと演劇に約五十人が参加。また、ライブにも二十五人ほどが参加するなど、少しずつではあるが参加者は増えている。来年以降が楽しみである。

学園祭をおわって

例年のように学園祭が開催され、キャンパスに大勢の若人が集まった。第1部（千里山キャンパスならびに高槻キャンパス）と第2部が連続した日程で行われたため、学部間のいわゆる統一学園祭としてだけでなく、第1・2部間での交流の意味合いも出て、昨年以上にまとまった構成になったように思われる。

最終日の後夜祭は、後半あいにくの天気となったものの、フィナーレを飾るにはふさわしく盛り上がりを見せた。学園祭実行委員の学生達の表情にも、祭りをやり遂げた充実感が満ちているように見受けられた。終了後は、昨年と同様に禁酒であったこと、また雨のせいもあり、近隣での騒ぎなど目立ったトラブルもなく、平穏無事に学園祭の幕を閉じた。

（学生部）

ONE FOR ALL ALL FOR ONE

第2部

今年の第2部学園祭は、移転後二年目ということで、期間、場所とも見直されて開催された。

期間は十一月一日から三日まで。場所は、昨年の第1グラウンドから第2体育館前にステージをつくり、模擬店を学生課前から第1、第2体育館前に配置して店舗数も一挙に三十七店に増やしていた。

しかし、初日は前日までの穏やかな天候とうってかわって、今年一番の寒さになったため、アイスクリームを販売している学生もどこか手持ちぶたさの様子でさみしそう。

その中、開会式と第2部恒例のもちつき大会が進行。2部独特の雰囲気が醸しだされていた。有邦館では落語笑会の新入寄席、特別講堂では石田長生のコンサートにと、祭りは大いに盛り上がった。

2日目になると、来場者も増え、模擬店は学生で一杯。ここで、第2部特有のメニューを紹介する。焼肉、ビーフシチュー、豚汁、カレーなどなど、第1部には見られないような料理が勢ぞろい。

ただ、天六キャンパスと違って、近所の住民の方たちの参加が少なかったのが少し残念である。また、第2体育館前の模擬店にも人が足を運べるように一工夫するのが、来年の課題かもしれない。

ともあれ、最終日も最後の後夜祭に至るまで盛大にかつ、第2部独特の雰囲気を失わず行われ、今年の祭りも無事終了した。

9種目で熱戦

第26回スポーツ週間（第1部）

第二十六回スポーツ週間は十月二日（月）から十一月二十八日（火）まで行われた。

今年行われた種目は、恒例のソフトボール大会をはじめ、バレーボール大会、バスケットボール大会、卓球大会、硬式テニス大会（ダブルス、バドミントン大会、サッカー大会、拳法大会、そして今年新しく設けられた陸上競技大会（100㍍・800㍍リレー）の九種目であった。

各種目とも大変な盛り上がりのなか、熱い戦いが繰りひろげられた。

主な成績は次のとおり。

▼バドミントン大会
【男子の部】①広田知茂（商三）②川口慎一（社一）③立川開（法二）
【女子の部】①松尾尚美（文三）②谷友紀子（社一）③藤井良美（社一）

▼硬式テニス大会
【男子の部】①半助②0－4 0③タクトミヒトナミ
【女子の部】①村田有子（社三）・高屋亜祐美（社三）②ピノ／CONTS③アンドロメダより愛をこめて

▼サッカー大会
①ペットボトルズ②リプトンズ③もぐるんDES

▼卓球大会
①栗原健司（工二）②山根寛生（商二）③村田安之（工二）

▼バレーボール大会
①みすずちゃん②まろ③アーミー

▼拳法大会
①阪口利正（法二）②宮本智弘（工二）

▼バスケットボール大会
①イヤス・アスメロン・テディラ②OBSTIN③BABYRUSH

▼陸上競技大会【100㍍】①曽谷繁徳（経三）②酒井拓也（商二）③高木宏明（商二）【800㍍リレー】①うるはうすA・C②ふぁみ～ゆ30③アトランダム

▼ソフトボール大会①ウルフズ②K jungle with S③TOMIOヤンキース

北斗寮が圧勝

今年の総合秀北戦

国際交流館・秀麗寮と北斗寮の寮生同志の親睦と交流を図る総合秀北戦が、九月二十三日から十月九日まで行われた。天候事情により四種目は中止となったが、学内外の会場で実施した十一種目において、白熱した戦いが繰り広げられた。

結果は八勝三敗で北斗寮の圧倒的勝利となったが、九月に来日した交換留学生を交えて、両寮の寮生は大いに親睦を深めた。

今年で四回目を迎えるわけだが、通算成績は2勝2敗となり、次年度以降の熱戦が期待される。

（学生部）

12チームでバレーボール

第2部は18回

第十八回第2部スポーツ週間は、十月二十六日（木）第2体育館メインアリーナにてバレーボール大会が行われた。参加チームは十二チームで、成績は次のとおり。

①「ミス散る」チーム②「バレーボール同好会」チーム③「Tsuji」と忠実な下僕たち」チーム

（学生部）

読書は楽しい!!

君達は「読書はつまらない」と思っているだろう。それも当然だ。君達は「教養と人格の陶冶を目的に読む」とか、「実社会で役立つから読む」とかいった誤った読書観を長い間植え付けられてきた。こんな読み方で読書好きになる筈がない。読書の楽しさを知る方法は何か？一つの方法は自分が一番好きなことに関する本を手ずから読むことである。車が好きなら車に関する本を読む。こうして読書に馴れていけば、関心も広がり読書好きになるだろう。そこで先生方に今、関大生が一番関心を持っていることをあげてもらい、それに関する本から始まり、次第に関連の近くにまで至る本を紹介して頂いた。我々が君達に知って欲しいことは一つ。本は面白いから読むのであり、本質的には遊びと変わりないということだ。それはテニスをして楽しいとか、好きな女の子とデートして楽しいとかと全く同じ次元の話なのである。（長久）

誰の恋人か、もう間違えない

孝忠　延夫

『チャタレイ夫人の恋人』事件は、表現の自由についての説明の中で欠かせない判決の一つだ。この判決（昭和三十二年三月十三日）で最高裁は、三つの要件を示して「わいせつ文書」の定義をおこなっており、今日まで、その定義は変更されていない。講義を聞いて、その三要件にうなずきつつ、学生諸君はどうも文字ではなく、映像・写真などをイメージしているケースが多いような気がする。「ジャングルの王者ターちゃん」にしばしば出てきたポーズを「わいせつ」だと答えた学生諸君はいなかったから、最高裁判決の一応の趣旨は理解されているようではあった。

「教師として、ちょっとマイケルは優秀な学生には好かれ、中程度の学生には恐れられ、それ以下の学生たちは敬遠された」（R・J・ウォーラー、村松潔訳『スローワルツの川』）。このマイケルは、同僚教授の夫人ジェリーを追ってインドに行くのだが、不幸にして、私がインドへ在外研究に出かけたのにもかかわらず、誰も追ってきてくれなかった。昭和一桁の年齢、学場人物の年齢と私の腰の衰えがダブってしまった。小説を読んだ「想い」だけをしまっておいたほうが良かったのかもしれない。

学年末試験で、「表現の自由の限界について論じなさい」という問題を出したことが何度ある。「エマニエル夫人」と書いた答案が続出し、映画「チャタレイ夫人の恋人」を観て、小説とは違った「想い」を味わってみたいのだが……。

（法学部教授）

やっぱり古典

野浪　嗣生

この原稿依頼を受け取ったとき、なにをいまさら、という気が一瞬した。なぜなら、すくなくとも文学部の教員（と学生？）にとって読書は楽しいものだということはあまりにも明々白々で当然すぎると思ったからだ。

若い人が本を読まなくなったというのは、ちょっと性の有無にとどまらない。たかが文字、されど文章である。

「教師として、ちょっとマイケルは優秀な学生には好かれ、中程度の学生には恐れられ、それ以下の学生たちは敬遠された」（R・J・ウォーラー、村松潔訳『スローワルツの川』）。このマイケルは、同僚教授の夫人ジェリーを追ってインドに行くのだが、不幸にして、私がインドへ在外研究に出かけたのにもかかわらず、誰も追ってきてくれなかった。昭和一桁の年齢、学場人物の年齢と私の腰の衰えがダブってしまった。小説を読んだ「想い」だけをしまっておいたほうが良かったのかもしれない。

学年末試験で、「表現の自由の限界について論じなさい」という問題を出したことが何度ある。「エマニエル夫人」と書いた答案が続出し、映画「チャタレイ夫人の恋人」を観て、小説とは違った「想い」を味わってみたいのだが……。

（法学部教授）

出不精男の疑似ヨーロッパ体験法

松尾　精彦

もしも海外の国について知ったければ、その国に行けばよい。現地社会の一員として暮らし、衣食住を基礎にした生活習慣に触れてみると越したことはない。でも大多数の人は行けない。僕を含め、行けない人はどうすればよいのだろうか？僕の場合は外国製品（できれば使用頻度が高く、値段もそれほど高くない品）を買って、実感するようにしている。

イギリス・フランス製のウォーキングシューズを買って、歩くという単調で退屈に思える行為がいかに楽しくて奥の深いものかを知った。そこで書くことはもっと楽しくなるものかと思ってみたら、想像通りでパソコンのキーボードを叩くことが味気なく感じられるようになった。今度は手帳・ナイフ・時計・カメラ・机・椅子・車と思いを馳せる。小さい頃から学校で「物を大切にしなさい。勉強しなさい。運動しなさい。よく噛んで食べなさい」と言われてきたわけだ。我慢してやるのでは続かない。ここに楽しみを見つけなければ、退屈だけれど重要なことを形にした道具を使うことなら、思想を支える生活を窺うことができるから。

本の世界も全く同様で、大日常のひきたりが登場して、食べたり飲んだりの品々が出ている著名な作品が取録されている。とはいえ著者・編者になぞらもみんな出るから、人間的面に出たいから、人間が前面に出て来るから。

うところが本当ではないだろうか。興味のある人には、この本のほか中公文庫から出ている連の大冊選集の本を推薦したい。これらは小説ではないけれど、読書にはとっかかりが必要なのである。

イタリア製スクーターの前に、持ち主である若者が友達の輪に囲まれ楽しそうに語りあっている。原文の抜粋には通俗注釈を付して理解を深める配慮がなされている。

近年、米文学史の捉え方は、一貫した主潮史の確認から多様性の歴史の洞察へと重点を移してきた。多様性の洞察は、そして文体（作家）の固有有把握は差異を通じた文体の味読とも言える。個々の文体の味読と差異を通じて、アメリカ文学の多様性と洞察を導く試みとなっている。

（秋元秀紀）

読書は楽しい!!

旅は楽しい

田中　茂和

海外渡航が自由化されたのが一九六四年（一ドル＝三六〇円）、持出外貨枠制限が撤廃されたのが一九七八年（一ドル＝二一〇円）、そして今や一ドル＝一〇〇円時代で、日本人海外旅行者数は年間一千万人をこえている。海外旅行は随分身近なものとなった。

僕の海外渡航先は十四か国にのぼるが、列車の旅はアムトラックだけでいつも飛行機。けれど、機内食よりもゆったりした食堂車での食事、機上から見える地図どおりの風景よりも車窓から楽しめる身近な風景がいい。**『夢の車窓』櫻井寛写真集［文・宮脇俊三、講談社、一九九四年］**はゆったりとした列車の旅を感じさせる。世界最長のシベリア鉄道、ゴージャスなイースタン&オリエント・エクスプレス、世界一長い直線区間を走るオーストラリアのインディアン・パシフィック号などなど。

しかし、日本人の海外旅行、日本企業の国際化が進むにつれ、国外リスクが増大している。わがゼミは国際金融ゼミなので、為替レートの実践をかねてゼミ旅行は海外である。そこでリスク回避のため、オリジナル・マニュアルに基づいて事前研修を行うことにしている。日本人は治安が良くて同質的な社会に暮らしているため、リスク認識に乏しい。会話の上でもゾオリ、エキスキューズ・ミィー、サンキュウの使い分けが大事であり、相手を確認するまでは絶対にドアを開けないこともホテルではとくに大事である。

この点、**島田晴雄・大田弘子編著『安全と安心の経済学』（岩波書店、一九九五年）**における「国外のリスク」の箇所は特に参考になる。この本は現代社会のかかえる新たなリスク、そしてそのリスク・カウンターの方策について読みやすい叙述をしている。誰しも遭遇しうる種々のリスクがふれられている。

「暇とお金があったら何をしたい？」と聞かれたら、「旅行」と答える人が多いと思う。旅は見聞を広めるだけでなく、非日常性を感じるからこそ楽しいのだろう。

その旅にもリスクがあり、日常生活の中でもリスクが存在する。リスクを回避しながら楽しい旅をしたいものだ。

（商学部教授）

読書嫌いの読書案内
―女と男のラビリンスに迷い込みたい人のために―

大和　礼子

私は決して読書好きではない。読書をするよりはテレビを見たり友人とだべっている方がずっと楽しい。しかし、大学教員という仕事柄、本を読まないわけにはいかない。というわけで、必要にせまられてしぶしぶ読書をしているわけであるが、そのようにして読んだ本の中にも結構「目からウロコ」の本はあるものである。

◇

私の女友達の話である。当時、彼女は虫歯の治療中で、その朝はとりわけ歯茎がはれて痛くてつらかった。そこへ夫に「歯が痛くて何も食べられない」と訴えた。すると夫は、「カロリーメイトを飲めばいいよ」と答えたのである。夫の対応に彼女は怒いた。彼女のアタマは考えた。〈確かにそのとおりだ。夫は私を思いやってくれている。歯が痛いときにどうしたら栄養をとれるか教えてくれている〉。しかし彼女のココロは感じていた。〈もしかしたら、そういうことじゃないのかなんていうか、もっと優しい言葉で慰めてほしかったのに……〉。

アタマとココロの相反する反応に直面して、彼女はこれをどう表現していいかわからず、でも夫に対する失望と怒りは納まらず、そのまま口もきかずに職場へ急いだそうである。

◇

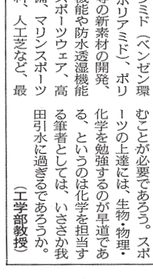
これは恋愛につきものの、女制・（女らしさという）制度を内面化した人）と男制（男らしさという）制度を内面化した人）とのディスコミュニケーションの一例である。なぜこのようなことが起こるのか。それを解きあかそうとしたのが**D・タネン『わかりあえない理由』（講談社）**である。

タネンにそれば、何らかの困難に直面している人に対して、女制は共感・同情を示すべきだと感じるのに対し、男制は具体的解決策を示すべきだと感じる傾向があるという。そして両制のこの感じ方の違いの背景には、それぞれの制の人間関係あるいは自分をとりまく世界についてのものの考え方の違いがあるというのである。タネンはそれを身近で興味深い例をあげながらわかりやすく解きあかしていく。

◇

この続きはぜひ本書をお読み下さい。そして女制と男制のラビリンス（迷宮）、すなわち、女制は恋愛・結婚・家庭を中心に、男制は仕事・社会を中心に、それぞれ世界を構築していることを理解されたい。

◇



スポーツに強くなる
生物・物理・化学の本

黒川　秀基

吉福康郎『スポーツ上達の科学』、高木隆司『スポーツの力学』（以上講談社）、日本化学会編『スポーツと化学』（大日本図書）

スポーツは、人それぞれの楽しみ方があるが、強くなりたい、うまくなりたいという願いは共通のものだろう。これには体で覚えるトレーニングが基本だが、体の動き、フォーム、スポーツ用具などに関して、科学的な裏付けが必要であると思われる。

不器用な私は、何をやらせてもうまくこなすスポーツマンを見て、うらやましいという思いと、自分とどこが違うのかと、疑問に思ったことがある。これに答えてくれたのが、「バイオメカニクス」（生体力学）を駆使して書いた、『スポーツ上達の科学』である。これは単に運動神経がよいというだけでなく、人体の構造や物理の法則から見て、どんなスポーツにも共通した合理的な動かしかた・使い方があるからではないか。投げる・打つ・蹴ぶ・走る、といったいろいろなスポーツに共通する基本作をとらえて、骨格や筋肉、神経の生理、さらには力学の観点から、もっとも効率のよいパワフルな動作のあり方を、分かりやすくまとめたものである。

打球に回転を与えると飛び方がどう変わるか、水泳のクロールを推力を上げるためどうするか、スキーで早く滑る峰登山装備、マリンスポーツ用化学材料、人工芝など、最近の話題から巡礼の一行がカンタベリー行すがら、順番に話をし一番上手な人が夕食をおごるという設定だ。味のある教訓話、吉本風たばの喜劇、現代人も呆れ返る妻の話から読書を飽きさせない。

パブといえば**田島久雄『アイルランド・パブ紀行』（東京書籍）**には、うっとりするようなカラー写真が散りばめられている。この国も、愛蘭土の漢字が雰囲気を高め流行中。英国の歴史を、迫害されたアイルランド人の側から眺めてみたい。松尾太郎『アイランド　民族のロマンと反逆』（論創社）を読むと、未だ美しい写本の装飾の数々から明らかにしてくれる一冊は**筑摩書房）。田中仁彦『ケルト神話と中世騎士物語』（中公新書）**は映画「インディ・ジョーンズ後の聖戦」にもなったアーサー王伝説がケルト起源であることを分かりやすく説明している。

――私の釣餌にかかった人、一緒に中世英文学を楽しみませんか。（総合情報学部教授）

和田　葉子

先祖ケルト人は欧州を支配し、良い餌があった。**小林章夫『パブ―大英帝国の社交場』（講談社現代新書）**。雑誌感覚で読め、中世から現代に至る英国の生活と歴史が学べる。パブについてもっと知りたくなったら、**日田昭『インーギリスの酒屋ではな』（駸々堂）**をどうぞ。どちらにもパブにまつわる様々な文学が登場するが、扱いが全然違うので御安心を。その一つがチョーサーの『カンタベリー物語』（岩波文庫）。中世のロンドンに実在した酒屋が書いた『スポーツの力学』。また、力の衰えを道具で力カバーしようとする寄りだけでなく、若い人にとっても、疲労のメカニズムなど、運動生理学的知見が活用されている。以上のように、スポーツを科学的にとらえて、それを体で覚えるトレーニングに励むことが必要であろう。スポーツの上達には、生物・物理・化学を勉強するのが単道であり、というのは化学を担う筆者としては、いささか我田引水に過ぎるであろうか。

（工学部教授）

新刊紹介

法学部教授　高森八四郎著『民法総則講義』（全文社・二〇〇〇円）

学生部長に続いて教学部長なども歴任されながらも、高森教授の研究は意気旋んであり、すでに「表見代理理論の再構成」を始めとする多数の論文を公にされている。民法総則の分野に精通された高森教授が学生諸君のために書かれたのが、この教科書である。

この書の特色は、学生諸君に興味をもって読んでもらいたい、との熱意で書かれている点にある。難読文章に慣れていない、初学者のための教科書であるので、基本的には通説に従っているが、重要箇所は丁寧に説明されている。代理行為の顕名主義の項などでは、自説の力強い主張もある。

学生部長に続いて教学部長なども歴任されながらも、高森教授の研究は意気旋んであり、すでに「表見代理理論の再構成」を始めとする多数の論文を公にされている。民法総則の分野に精通された高森教授が学生諸君のために書かれたのが、この教科書である。

この書の特色は、学生諸君に興味をもって読んでもらいたい、との熱意で書かれている点にある。難読文章に慣れていない、初学者のための教科書であるので、基本的には通説に従っているが、重要箇所は丁寧に説明されている。代理行為の顕名主義の項などでは、自説の力強い主張もある。

名誉教授　谷水一著『「嘘ばっかり」で七十年』（講談社・一四〇〇円）

政治、経済、社会の仕組みが世界的レベルで変わろうとしている。今までの常識が通用しなくなり、新しい時代に即応した生き方が求められている。情報過氾濫していても細分化されており、先を読むことは至難である。大きな転換点の読み誤ると取り返しがつかないだけに、ことは深刻である。こうした混沌とした世界を読み切るには、物事を本質化し、単純化することによって真によく理解できることがしばしばある。

本書は、視点を人間性の本質の理解に置いて、社会主義、共産主義等の実践を明快に解析し、二十世紀を共産主義に踊られた時代と定義するとともに、都市サラリーマンが日本の政治の命運を握っているとして、投票による政治改革への近道であると説く。そして、本書は、自由放任の市場経済から、国家が積極的に介入する「マネイジド・エコノミー」管理経済への転換期であったとの見方を示している。世界史の転換点をイギリスはどのように乗り切ったのか、それはナチスやニューディールと、どう異なるのか、大不況の国際比較に関心を持つ者は、本書から多大の示唆を得るにちがいない。

両大戦間期、イギリスでは自動車、電機、レーヨン、化学等の成長産業が勃興した反面、かつて大英帝国の繁栄を支えてきた輸出産業が軒並み深刻な不況に見舞われた。その昔、「三笠」をはじめ日本の連合艦隊を建造した造船業はその典型一大量失業の脅威が世界を覆っている今日、イギリスの経験に学ぶ点は少なくない。

（荒井政治）

名誉教授　多田敏男、中山喜代市、谷口義明編著『アメリカ文学史へのアプローチ―作品〇〇選―』（関西大学出版部・一五〇〇円）

本書は三人の米文学者による新しいタイプのアメリカ文学史テキストの試みである。文学史の教科書と言えば作家・作品名を列挙して解説する通史が多く、学生が作品原典に直に接する機会は意外に少ない。本書の眼目は、作品の原文を中心に据えて、多くの作家の多様な文体に直接触れる機会を提供することにある。

主題別全二〇章、厳選された抜粋一〇〇選で、植民地時代から今日注目著しいネイティブ・アメリカン等の女性作家まで視野に入れている。各章冒頭に概説を置き、原文の抜粋には通宜注釈を付して理解を深める配慮がなされている。

近年、米文学史の捉え方は、一貫した主潮史の確認から多様性の歴史の洞察へと重点を移してきた。多様性の洞察は、そして文体（作家）の固有有把握は差異を通じた文体の味読とも言える。個々の文体の味読と差異を通じて、アメリカ文学の多様性と洞察を導く試みとなっている。

（秋元秀紀）

商学部教授　大橋昭一他編著『現代社会基本経営学　総論』（中央経済社・三二〇〇円）

経営学の泰斗として、令名夙に高いマネジメント・ストックスの経営学の研究は、ドイツ、アメリカ、日本における経営学の入門書を心がけて編まれたものである。良いテキストは、立派な研究書を完行することに匹敵するほど重要なものである。そして現在における経営学の概説的な入門書をつくることは、容易であると、つねづね提唱されてきた。

本書では、経営を全体的に把握する必要性があるとの認識から、まず経営学として本来論究されるべき分野や問題についての理論や分析方法が解明提示されてドイツ、次にその上に立って正当だと思う」の上に立って正当だと思う」の力、日本における経営学の経営理論の最新の動向が検討され、もって現在における経営学の諸問題の究明と将来の展望が試みられている。

時は秋。経営学の初学者だけでなく、研究者や専門家の含み一定の智慧度に達しておられる読者にも、秋の夜長に本書のような好著にじっくり取り組まれることをおすすめしたい。

（井上昭一）

社会学部教授　田宮武著『マスコミュニケーション差別表現論』（明石書店・三三〇〇円）

〈差別と表現〉の問題をめぐって著者は精力的な発言をしている。「はじめに――差別語と差別表現」の章に付された「論議を深まりを期待する」の副題には、この書を通して、この書の熱い思いが込められた極的な営為の中の一つである。

冒頭の「はじめに――差別語と差別表現」の章に付された「論議を深まりを期待する」の副題には、この書を通して、この書の熱い思いが込められた極的な営為の中の一つである。

語と差別表現」の章に付された「論議を深まりを期待する」の副題には、この書を通して、この書の熱い思いが込められた極的な営為の中の一つである。

語と差別表現」の章に付された「論議を深まりを期待する」の副題には、この書を通して、この書の熱い思いが込められた極的な営為の中の一つである。

『新刊紹介』

図書館職員　渡部晋太郎著『国語国字の根本問題』（新風書房・三〇〇〇円）

常用漢字、現仮名遣い、現代日本語の正書法と教えられてきた読者にとっては、この本の戦後国語革批判は過激すぎる告発と映るかも知れない。あれだけの改革があのような短年月の間に強行されたのは、第一部仮名遣いでは土淵山恒明批判、第II部漢字では加藤秀俊、梅棹忠夫、M・マーシャル批判を通して、そして第III部戦後国語改革では国語審議会での各委員の発言を通して、詳細にたどっている。第IV部sedはは、JIS83への問題点だけならば、この著者ならではの蘊蓄があり、ワープロ、パソコンの普及が国語国字問題に新しい視点を要求していることを知る。

私自身、福田恆存『私の國語教室』の時期、『現代仮名遣い』、『現代日本語』、『言葉と現実』、『言葉と人間』、『言葉と文明』、『言葉と言葉』、『言葉と言葉』、『言葉と言葉

図書館だより

アメリカのノーベル賞作家

ソール・ベロー作品と研究コレクション

本学図書館は、平成四年度基本図書として、ノーベル賞作家ソール・ベロー（Saul Bellow,1915-）の著作および彼に関する研究書等のコレクションを購入した。

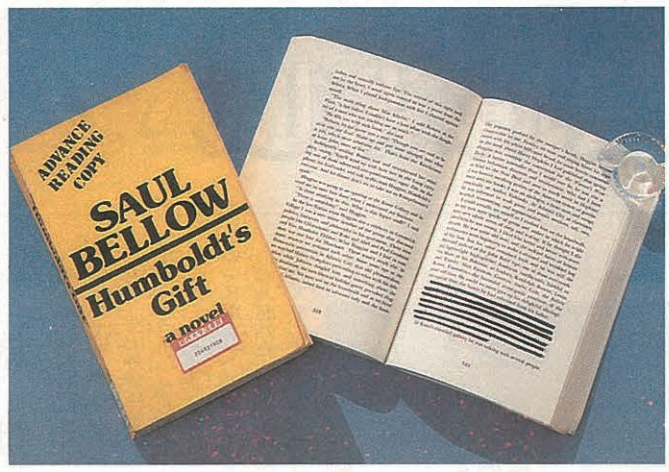
現代アメリカの代表的作家

一九五〇年代以降のアメリカ文学は、ユダヤ系作家の時代とも言われ、皆さんのよく知っているJ・D・サリンジャーやノーマン・メイラーもそうした作家である。その中でも、今回紹介するソール・ベローは、その中軸を担い、またヘミングウェイ、フォークナー亡き一九六〇年代以降の空白を埋める最も重要なアメリカ作家として高く評価されている。このことは三度にわたる全米図書賞（National Book Award）、O・ヘンリー賞やピューリッツァー賞ほか数多くの賞に輝き、一九七六年にはノーベル文学賞を受賞するという経歴からも分かるであろう。

その作品は、知識人の葛藤をユーモアとアイロニーを用いながらも真摯に描くことが多いようである。

略歴を挙げると、彼は一九一五年、カナダのケベック州にユダヤ系ロシア移民の子として生まれ、九歳のときにシカゴに移り、英語、仏語、ロシア語、イディッシュ語（注）等多言語に囲まれて育った。

シカゴ大学とノース・ウェスタン大学では社会学と人類学とを専攻し、一九三七年ウィスコンシン大学大学院中退後、シカゴにあるカレッジで講義をしながら作家を志した。その後もミネソタ大学、プリンストン大学等で教鞭を執るかたわら創作活動を続け、一九六三年からは約三〇年にわたり、シカゴ大学の著名な社会思想委員会教授を務めた。近年、長年暮らしたシカゴを離れてボストン大学に移ったが、その後も意欲的に創作活動を続けている。



『フンボルトの贈物』ゲラ刷り原稿

初版本、異版本、ゲラ刷り原稿等を含む網羅的なコレクション

全百四十四点からなるこのコレクションの構成は、大きく二つに分けることができる。入手が困難なゲラ刷り原稿や署名本、著者献呈本、初版本、異本等さまざまな版の作品と、ベローに関する批評や作品研究である。これらの図書は、作家としての彼の全体像を把握する上での基本的な文献である。保存状態も良好なものが多く、また、推薦文や批評の書かれたジャケットも図書に添付して保存している。

さて、このコレクションの中から、著者の代表的な作品を以下に紹介したい。

『オーギー・マーチの冒険』 *The Adventures of Augie March*（New York：Viking,1953).

『宙ぶらりんの男』*Dangling Man*(New York: Vanguard,1944).

『犠牲者』*The Victim*（New York:Vanguard, 1947）に続く第三作で、全米図書賞を受賞、作家としての地位を確立した。主人公オーギーの少年時代からの波瀾に満ちた経験を一人称で語る自伝的小説で、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』の伝統を継承するアメリカ版ピカレスク・ロマン（悪漢小説）である。コレクションでは九種類の版のものを十冊所蔵。また、十二頁からなる当時の出版広告も所蔵している。

『ハーツォグ』 *Herzog*（New York: Viking,1964).

国際的な名声を博した代表作の一つ。自らの拠り所を喪失した現代の知識人の不安定な内面を、内的独白を軸にした斬新な手法で喜劇的に描き出している。イタリア語訳や台湾で出版されたものも含め六つの版を所蔵。本作品によってベローは二度目の全米図書賞を与えられたが、その受賞講演原稿の謄写版もある。

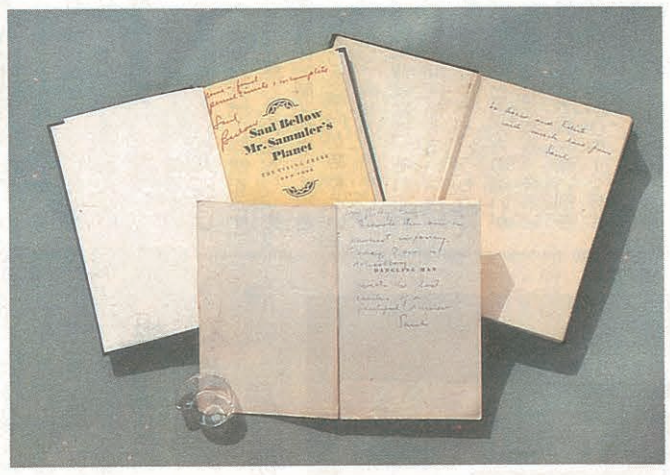
『サムラー氏の惑星』 *Mr. Sammler's Planet*（New York：Viking, 1970).

三度目の全米図書賞受賞作。ジェノサイドを生き残った老ユダヤ人の視点から、現代のニューヨークを見据える異色の作品。初出雑誌の *Atlantic Monthly*（Vol. 224 No. 5. 6）のほか、ゲラ刷り原稿二点を含む。

『フンボルトの贈物』 *Humboldt's Gift*（New York：Viking.1975).

ピューリッツァー賞受賞作。作家として成功した主人公チャーリーの喜劇的な行動と、かつての親友で汚辱のうちに死んだ天才詩人フンボルトに対して抱く懊悩を軸に、著者が「魂の問題」と呼ぶ主題を扱う自伝的作品。訂正の入ったゲラ刷り原稿を含め、五点を所蔵している。

【注】中欧系、東欧系ユダヤ人が、家族あるいはユダヤ人社会の中で使用している言語。ヘブライ語が宗教、学問の言語であったのに対し、日常的性格が強い。中世ドイツ語諸方言を基礎に、様々な言語から影響を受けながら独自の発展を遂げた。より詳しくは図書館にもある『言語学大辞典 第一巻』(東京 三省堂 一九八八) 等を参照していただきたい。



献辞等の書かれた図書

研究室訪問

家族法論

答える人
法学部教授
千藤　洋三

人間性への探究―
相続（争族）問題を掘り下げる

―まずどのようなことを研究されているかお聞かせ下さい。

欲張りですから、三点を並行して行っています。一つは、共同相続人間の平等確保という観点から遺産分割、とりわけ特別受益の持ち戻し制度を研究しています。これは、被相続人が生前に生計の資本や婚姻あるいは養子縁組に際して贈与したり遺贈したときに、遺産の分割に際し、これら特別受益額を遺産総額に計算上戻して、それをもとに共同相続人の間で遺産を平等に分けようというものです。

二つ目は、まもなくやってくる超高齢化社会における高齢者の財産管理や身上看護について、特に遺言能力に関する研究です。これが、法学研究所で今年から発足した成年後見制度研究班における目下の私のテーマです。高齢者が死後のことを考えて遺言を作成するのは好ましいことですが、法律の専門家である公証人が関与されている公正証書遺言においても、アルツハイマー型症状などで遺言能力を喪失しており、結局、無効というケースがみられます。遺言能力の判断基準などを検討してみようと思います。

最後に、家庭生活を維持する女性の権利向上という観点から、たとえば夫の両親の面倒をみた嫁への財産配慮（寄与分制度の活用）や、選択的夫婦別姓が実現した場合の夫婦別産制との兼ね合いなどを追求しています。

―それぞれの研究テーマには難しい問題がおありなんでしょうね。

そうです。たとえば特別受益の持ち戻し制度は、ドイツやフランスの民法（草案）から継受したものですが、わが国の司法書士実務では、何も貰っていないのに貰ったことにして、遺産のうちの主要な不動産名義を特定の相続人に集中させるという逆の使われ方がなされています。最近は、条文通りの平等意識が高まってきていますが、どのように遺産を分割するかについて、いろんな見解の対立があります。

また、遺言能力については、これまでは能力があるか否かといったオール・オア・ナッシングな処理の仕方が行われていましたが、近年における脳研究の発達により、よりきめ細かに判断していこうという傾向が出てきています。

現行の夫婦別産制は、夫婦各自の稼いだものから婚姻費用を分担した残りは各自のものという制度です。しかし、夫の稼いだものも夫婦の共有財産だとする多くの市民意識とはかけ離れており、このままの状態で別姓が選択された場合には、どういうことになるのかを考えています。

―結構、面白いことをされているのですね。ゼミでは議論が盛り上がるでしょう。

ゼミは、公務員や資格試験希望者などに配慮して、財産法を主体に勉強しています。親族法・相続法をより深く研究するためにも財産法を学ぶことが必須です。

―今後は、どういうことを研究するおつもりですか。

今やっていることが一段落したら、相続と登記、遺留分制度などを深く掘り下げてみようと楽しみにしています。

千藤洋三教授のゼミ風景

KUカレンダー

11月30日(木)	◇大学院祭（12／3まで） ◇就職講座（12：10　第2学舎C304R なお、11／30のみ第1学舎A200R、土日除き12／8まで）
12月1日(金)	◇文・セミナー「卒論・就職―その戦略を語る」（13：00　第1学舎）ニチイ　堀切志保氏
3日(日)	◇工2・3年次生父母対象就職懇談会
4日(月)	◇指定校制（法除く）、商・公募制推薦入試合格者発表 ◇留学生、編転入試合格者発表
7日(木)	◇学年末試験時間割発表
8日(金)	◇院博士前期・修士留学生入試〔筆記〕 ◇院博士前期・修士社会人入試〔筆記〕（法・商・社各研究科） ◇院博士後期社会人入試〔筆記〕（社研究科） ◇商・廣田司朗教授最終講義（10：40　第2学舎　A41R）
9日(土)	◇商・留学生と一般学生との交流会（14：40　第2学舎　商・会議室）
11日(月)	◇院博士前期留学生入試〔口頭〕（法・経・商各研究科） ◇院博士前期社会人入試〔口頭〕（法・商各研究科） ◇就職活動体験報告会（12：10　第1学舎A200R　土日除き19日まで）
12日(火)	◇院博士前期・修士留学生入試〔口頭〕（文・社・工各研究科） ◇院博士前期・修士、後期社会人入試〔口頭〕（社研究科）
13日(水)	◇経政研公開講座（13：00　図書館3Fホール「『製販同盟』をめぐる動向」商・陶山計介教授） ◇商・演習ガイダンス ◇部落問題フィールドワーク
15日(金)	◇教育実習成績発表
19日(火)	◇院博士前期・修士留学生入試合格者発表 ◇院博士前期・修士社会人入試合格者発表（法・商・社各研究科） ◇院博士後期社会人入試合格者発表（社研究科）
20日(水)	◇授業終了
21日(木)	◇補講（22日まで） ◇冬季休業（1／7まで）
1月8日(月)	◇授業再開 ◇就職模擬面接・女子セミナー受付（20日まで） ◇就職連続講座（12：00　第1学舎A200R　12日まで）
9日(火)	◇文・卒業論文受付（10日まで） ◇商・研究論文受付（11日まで）
11日(木)	◇学年末試験レポート受付（12日まで）

次号は1月12日発行の予定です

今月の表紙

陶山　計介（すやま・けいすけ）**教授**　専攻は販売管理論。流通論やマーケット論に取り組み、その成果をまとめた『マーケティング戦略と需給斉合』で九三年度日本商業学会賞を受賞している。

▶編集後記◀

今年の学園祭の後夜祭はあいにくの雨となりましたが、参加者の皆さんには、思い出の一こまになったことと思われます。第四・五面では、改めて後夜祭の特集を組み、参加者にアンケート調査をお願いしました。また、六・七面では若者の関心や趣味を手がかりに、そこから問題意識をもってもらえるような読書案内を組みました。

十月から新広報委員会がスタートしました。新しい委員は、各学部から植木哲、月岡利男（委員長）、紙谷榮治、松村暢隆、佐藤真人、長久良一、鶴田廣巳、川端康之、王耀鐘、神谷国弘、八島智子、西田晃一、西山富博、三宅秀和が、大学院から長谷川存古が、そして学生部から土戸哲明学生部長代理、大学本部から鈴木俊光教学部長代理、法人本部から亀井利明理事が就任しました。（紙谷記）